

Eosinophilic otitis media is associated with asthma severity and smoking history.

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2016-01-29 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 瀬尾, 友佳子 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10470/31342

主論文の要約

Eosinophilic otitis media is associated with asthma severity and smoking history.

(好酸球性中耳炎発症には喘息の重症度と喫煙歴が関係する)

東京女子医科大学耳鼻咽喉科学教室

(主任：吉原 俊雄 教授)

瀬尾 友佳子

ORL 雑誌 第 77 巻 第 1 号 1 頁～9 頁

(平成 27 年 1 月 29 日に online 掲載)

【目 的】

好酸球性中耳炎 (EOM) は、難治性の中耳炎でその約 90% に喘息を合併する。一方で喘息の約 10% に EOM を合併する。従って EOM の発症は喘息の病態と密接な関係にあると考えられる。そこで、喘息患者を EOM 合併群と非合併群に分け、EOM 発症に関係する喘息の臨床像を検討した。

【対象および方法】

対象は、喘息合併慢性鼻副鼻腔炎患者 41 名 (男性 18 名、女性 23 名) 中、EOM 合併群が 14 例、非合併群が 27 例である。各群における、喘息のリスクファクター【喘息発症年齢、Body mass index (BMI)、アスピリン過敏性、喘息の家族歴、喫煙歴の有無と Brinkman index (BI)】、血液検査所見 (血中好酸球数、総 IgE 値)、喘息の重症度 (GINA Update 2012 による)、呼吸機能検査、高分解能ヘリカル CT による気管壁の肥厚率、気腫化の有無について検討した。EOM の診断は診断基準に従って行った。

【結 果】

検討項目中、喘息発症年齢、BMI、アスピリン過敏性、喘息の家族歴、血中総 IgE 値、呼吸機能検査、高分解能ヘリカル CT による気腫化の有無については両群において有意な差は認めなかった。しかし、EOM 合併群において有意に

喘息重症例が多く、気管支壁肥厚率は EOM 合併群 $67.1 \pm 3.8\%$ 、EOM 非合併群 $60.9 \pm 7.0\%$ ($p < 0.01$)、血中好酸球数は EOM 合併群 1030.2 ± 983.4 cells/ μ l、EOM 非合併群 454.0 ± 315.8 cells/ μ l ($p < 0.01$)、BI 値は EOM 合併群 604.6 ± 747.2 、EOM 非合併群 176.1 ± 290.9 ($p < 0.05$) と統計的に有意に上昇していた。

【考 察】

中耳腔は耳管を通じて鼻咽頭や気管とつながっており、上気道の一部と考えられる。組織学的に見ても中耳粘膜は鼻粘膜、気管粘膜同様線毛上皮細胞であり、EOM は、気道炎症と考えられる。さらに、EOM 患者の中耳貯留液中には Th2 サイトカインである IL-5 が優位に上昇しており、EOM と喘息の関係もアレルギー性鼻炎や慢性鼻副鼻腔炎と喘息の様に one airway, one disease の関係に当てはまると考えられる。今回の研究において、EOM は重症喘息の場合に発症しやすいことが明らかになった。

喘息が重症であるほど、血中・喀痰中好酸球数は上昇し、気管支の壁肥厚は増加すると報告されている。また、喫煙は一般的に気腫化を引き起こすといわれているが、今回の検討結果より EOM においては、喫煙が壁肥厚を誘導し、喘息を重症化させることで、結果として EOM 発症に影響を及ぼしているものと考えられた。

【結 論】

今回の検討から、EOM は重症喘息で血中好酸球数が高い症例に合併することが明らかになった。また、その喘息重症度は喫煙による気管支壁肥厚と関係することが示唆された。